

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 11 日現在

機関番号：22101

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2014

課題番号：23660070

研究課題名(和文) 不妊治療後の妊婦が安心して健康的な妊娠生活を過ごすための看護ケアプログラム

研究課題名(英文) Nursing care program aimed at facilitating healthy antenatal life for expectant mothers who became pregnant through infertility treatment

研究代表者

長岡 由紀子 (NAGAOKA, YUKIKO)

茨城県立医療大学・保健医療学部・准教授

研究者番号：80315762

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は不妊治療後の妊婦が健康的な妊娠期を過ごすための看護ケアの開発を目的に実施した。

ケアの開発過程では、文献検討やインタビュー調査を行い、対象者が健康的な妊娠期を過ごすには不妊治療後の妊娠に特化した内容の情報提供が有用との結論を得た。そこで特にケアニーズの高い生殖補助医療による妊婦(ART妊婦)への妊娠初期の情報提供ツールとして、小冊子を作成した。作成過程では医師や看護師、ART妊婦の意見を参考にした。今後はこれらを活用した効果を測定し、さらに精選させる予定である。

研究成果の概要(英文)：This study has been carried out to develop a nursing care program aimed at facilitating healthy antenatal life for expectant mothers who became pregnant through infertility treatment.

Documents were examined and interviews were conducted in the process of care development, concluding that delivering information specific to pregnancy after infertility treatment is an effective way of ensuring that applicable expectant mothers get through healthy antenatal life. A special leaflet was then produced as tool for providing first trimester information to pregnant women who received assisted reproductive treatment (ART patients), who have a particularly high need for extra care. Opinions of medical practitioners, nurses and ART patients were incorporated into the process of leaflet production. The effects of using the leaflet will be measured to refine the program further in the future.

研究分野：助産学 生殖看護学

キーワード：不妊治療後妊娠 看護ケア 情報提供 安心

1. 研究開始当初の背景

子どもを欲しいと願い、不妊治療に臨んでいる女性は推定 50 万人とされている。治療環境や治療成績の向上から、妊娠・出産を経験する女性たちが増えている一方で、不妊治療後の妊娠はそれまでの不妊体験や治療中のネガティブな経験が影響するため、待ち望んでいた妊娠を喜ぶことができず、妊娠に伴う生理的変化でさえも恐れ、過度に警戒したり (Bernstein, 1994), 児の健常性 (森, 2005) や、流産に対する不安 (岸本, 1996) が強いことが知られている。また、研究者の先行研究 (長岡, 2001) から、不妊女性は自分が傷つかないように、妊婦や子どものいるコミュニティとの関わりを避ける傾向にあることが明らかになったが、このような対処行動は、自身が妊婦になってからの母親役割モデルの欠如をもたらし、妊娠期の課題である母親役割取得の遅れという結果につながりかねない。以上のことから、不妊治療後の妊婦に対しては、自然妊娠の場合と異なる看護援助の必要性があるといえる。

厚生労働省は「健やか親子 21」の主要課題の中で、妊娠・出産の安全性と快適さの確保や、育児における心の健康を掲げており、不妊治療後の妊婦が安心して健康的な妊娠・出産の過程を辿るための看護ケアの開発は必要不可欠と考える。

2. 研究の目的

不妊治療後の妊婦が、安心でより健康的な妊娠期を過ごすための看護ケアプログラムの開発である。

3. 研究の方法

研究目的に応じて、研究 1 ~ 3 まで段階的に研究を遂行した。

4. 研究成果

研究 1: 文献検討

不妊治療後妊娠に関する看護研究の動向：文献検討

(1) 研究目的

文献検討を行い、不妊治療後妊婦の特性や望ましい看護ケアの方向性を明らかにする。

(2) 方法

・研究期間：2011 年 4 月 ~ 12 月

・方法：

医学中央雑誌掲載論文 (1982 ~ 2011 年) を対象に「不妊治療後」、「妊娠」のキーワード検索を行い、看護の視点で記述されている原著論文を抽出した。分析方法は、研究目的別に分類し、結果を比較した。

(3) 結果

該当する文献は 35 件であった。

年代的推移は、90 年代迄の文献は 3 件と少

なく、2000 年以降に激増する傾向にあった。

過去 10 年分の 28 文献の研究の焦点は以下の 3 つに大別された。

治療後妊婦の心理特性に関するもの：不安、うつ、母性意識など。

治療後妊婦の心理過程に関するもの：不妊の主観的体験、自己受容、母親役割取得の過程など。

ハイリスク事例に対する看護方法：多胎妊娠、切迫早産等。

研究方法別では、介入研究は母親役割取得過程を促すプログラム開発の 1 件のみであった。

(4) 考察

治療後妊婦の不安や抑うつが、自然妊娠と比較した場合に違いがあるかの一定の見解は得られなかったが、胎児の発育や異常の有無に関する不安が高い傾向にあることや、初産婦や長期不妊治療経験者に抑うつが高いなどの結果から、妊婦の不安やうつに着目し、個別性にあったケアを提供することの重要性が示された。

治療後妊婦の母性意識が低い傾向を示すのは、一般的に母親役割獲得が遅れる傾向にあることに関連すると推察されるため、妊娠早期から役割獲得を促すケアが必要である。

さらに、治療後妊婦の自己受容や母親になる過程には独特の課題が伴うという結果から、個々が不妊経験をどのようにとらえているかを理解した上で親役割獲得を促すケアを検討する必要がある。

妊娠・分娩の先にある産褥・育児期においても、不妊治療後の母親の母性意識や胎児感情には様々な見解があった。産褥期は身体的な適応だけでなく、親役割の獲得や新しい家族の形成など心理社会的な適応を要する時期であり、それらが母親の母性意識や胎児感情に関連すると推察される。

以上の結果、不妊治療後の妊婦の特性に関する一定の見解は得られなかったが、自然妊娠とは異なった心理状態や、適応の過程を辿ることが明らかになった。また研究の焦点は、不妊治療後の妊婦という対象理解を中心としたものが多く、介入研究は少ないため、明らかにされている対象特性を踏まえた看護介入を検討していく必要がある。不妊治療後妊婦にとっての「安心」の概念は明確にできなかったが、消失することのない「不安」を軽減することが安心感につながるという結論を得た。

研究2：予備研究

不妊治療後の妊産婦を支える看護ケアについて

(1)目的

文献検討では、治療後妊婦の特性を捉えることができたが、介入研究が少なく適切な看護介入については明らかにできなかった。そこで、予備研究として、不妊治療後の妊婦へのより良い看護ケアプログラム構築の一助とするために、不妊治療に携わる看護師が捉える治療後の妊産婦へのケアの様相を明らかにした。

(2)方法

- ・研究デザイン：質的記述的研究
- ・研究対象：不妊症看護認定看護師3名
- ・調査期間：2012年3月
- ・調査及び分析方法：

不妊治療後の妊産婦をどう捉え、どのようなケアを実施しているか（必要と認識しているか）に関して半構成的面接を実施した。

インタビュー内容は逐語録とし、記述した内容から研究テーマに関連している内容を抽出し、質的に分析した。

分析の際は、母性看護を専門とする複数の研究者で実施し、信頼性・妥当性の確保に努めた。

倫理的配慮として、調査開始前に茨城県立医療大学倫理審査委員会の承認を得た。協力者へは、口頭及び文書にて、研究への参加及び撤回における自由意志の尊重、公表に際しての匿名性とプライバシーの保持を説明し、同意を得た。

(3)結果

対象者の認定看護師取得後の不妊看護ケア経験は、4年～6年であった。

不妊治療後の妊産婦に対するケアの様相には7つのカテゴリ【】が抽出された。

看護師は、妊産婦に対して＜自分の身体の声に気付かせる＞や＜児の個性に気付かせる＞といった【気づきの促し】により、自分自身への気づきを深めたり、児も一人の個性ある人間であることへの気づきを促していた。＜今の状態を把握する＞＜今できることをする＞など【現状を認識し、すべきことを促す】は、妊婦が自身の置かれている現状を客観的に把握し、その時々で自分がどうすべきかを考え、行動するよう促していた。

胎児が順調に育つかどうか不確かな思いを抱いている場合には、＜胎児の生きようと力を信じる＞など【胎児の力を信じる】ことを促し、順調な妊娠経過を辿っている場合には＜親になることのイメージ化＞や＜胎児のイメージ化＞など【空想化による親役割の促進】など、その時々々の妊産婦の思いに寄り添ったケアを行っていた。

妊娠経過中に生じる様々な不安や不確かさに対しては、＜今は大丈夫であることを伝える＞ことや＜今後の見通しを伝える＞などの予期的指導により【安心感をあたえる】と同時に、＜普段通りの生活への促し＞や＜日常生活の過ごしを伝える＞など【日常生活をおくるための指導】を行っていた。

妊娠後も「不妊」のアイデンティティをもち続けている場合には、＜不妊治療からの卒業＞に気付かせ＜普通の妊娠経過への気持ちの切り替え＞など【不妊からの卒業】を促し、妊婦という新たなアイデンティティを形成できるよう導いていた。

不妊治療後の妊産婦と関わる看護者としてのスタンスには2つのカテゴリ【】が抽出された。

看護師は、＜医療者間で情報を共有する＞＜医療者間で連携する＞など【医療者間の連携と情報共有】を基盤として＜個々のやり方を見守る＞＜一人ひとりに寄り添う＞など【個を尊重した見守りと承認】を行っていた。

(4)考察

看護師は、治療後の妊産婦を「不妊治療後妊婦はこういう傾向がある」といったステレオタイプな捉え方はしておらず、不妊や不妊治療による個々の経験や、その時々々に生じている思いを尊重し、個別的なケアを提供していた。

不安表出の促しや今後の見通しを伝えるなどの予期的指導は、妊産婦にとって安心感を高めるケアとなり、自分のおかれている現状を把握し、行動へと繋げることは、妊産婦のセルフケア能力を高めるケアとなっていた。また、自己への気づきを促したり、子ども（胎児）の力を信じることで、不妊から卒業して新たなアイデンティティの構築に働きかけることは、親役割の促進に繋がっていくケアであることが示唆された。

研究3：本研究

ART 妊婦が安心して健康な妊娠期を過ごすための情報提供ツールの開発

(1)目的

先行研究の結果から、不妊治療後妊婦の特性と望ましいケアの方向性が確認できた。本研究の目的はこれまでの結果を基盤として不妊治療後妊婦が安心して健康的な妊娠期を過ごすための情報提供ツールを開発することである。

(2)方法

- ・研究期間：2013年4月～2015年3月

第1段階：情報提供ツール作成における検討

・方法：不妊医療に関連する国内外の関連学会や研修会等を通じ、資料収集及び専門家との情報交換を行い、以下の点について明確にする。

情報提供の対象及び妊娠時期
情報のコンテンツ
情報の発信方法（媒体）

第2段階：情報提供ツールの開発と評価

・方法：第1段階で得られた結果をもとに、情報提供ツールを開発し、評価する。

(3)結果

第1段階：情報提供ツール作成における検討
情報収集の結果、以下のような知見を得た。

情報提供の対象及び妊娠時期について

不妊治療後妊婦の中でも、援助の必要度が最も高いのは、体外受精-胚移植をはじめとする高度生殖補助医療により「妊娠」と診断された妊婦（以下、「ART妊婦」とする）であるため、本研究ではART妊婦を対象とすることとした。

また妊娠中はどの時期においても不安が伴うが、妊娠初期は以下の理由から援助の必要度が高いとの結論を得た。

・ART妊婦は自然妊娠と比較し妊娠判定の時期が早い場合、正常妊娠（生物学的妊娠）と診断されるまで10日前後の期間がある。特にART妊娠の場合は流産率が高いため、妊婦は流産への不安を抱きながら過ごしている可能性がある。

・ART妊婦の多くは、分娩を取り扱わない不妊専門施設で治療を受けており、妊娠成立後は転院を余儀なくされる。そのため、分娩施設で医療者と新たな人間関係を構築しなければならず、妊娠初期の不安を表出しにくい状況にある。

・不妊治療中は妊娠がゴールになる傾向にあるため妊娠期の過ごし方がイメージできていない場合があり、心理社会的な適応に時間がかかる場合がある。

妊娠初期のART妊婦に提供する情報のコンテンツについて

前述の結果から、提供する情報はART妊婦に特化した内容が望ましいと考え、以下の内容を挙げた。

・妊娠判定後の経過と過ごし方
・ART妊婦の場合の化学妊娠や流産のリスクについて
・ART妊婦の心理的特徴を踏まえた気持ちの保ち方
・転院の方法や医療者との付き合い方、など

さらに、自然妊娠とも共通する内容として以下の情報を加えた。

・妊娠初期のマイナートラブルと対処法
・妊娠初期の過ごし方

情報の発信方法の検討

ART妊婦に対する妊娠判定後のケアは、頻回な定期受診による胎児（胎芽）の発育の確認が主となる。また妊娠判定後は正常に経過するか異常妊娠（流産・子宮外妊娠）のいずれかの転帰をとる。そのため、情報はより個別に発信することが望ましいと考えて、母子健康手帳を受け取るまでの期間に活用できる小冊子を作成することとした。

第2段階：情報提供ツールの開発と評価

第1段階の結果を踏まえ、小冊子の編集を行った。

掲載する情報は、専門書や信頼のおけるデータを参考に抽出した。内容の信頼性・適切性の確認にあたり、数回にわたり、生殖看護の専門家や不妊看護認定看護師のコンサルテーションを受けて作成した。

小冊子のデザインは、対象者にとって安心感や温かみを実感できるような色合いやイラストを、編集デザイナーと共に検討した。

小冊子のタイトルは「妊娠がわかったあなたへ～これからの1か月間を安心して過ごしていただくために～」とした。

次に小冊子の評価を実施した。作成した小冊子（案）を、不妊医療に携わる医療者（医師、看護師）、不妊治療後妊婦（経験者）に提示し、意見を求めた。

その結果から文言や表現を微修正した。掲載内容については、妊娠判定後の過ごし方における注意事項の補足、妊娠維持のためのホルモン剤等の投与について、母子健康手帳の交付方法と時期、等についての追記のニーズがあったため加筆した。小冊子の有用性については肯定的な意見を得た。

以上の意見を反映させ、B6サイズ、20ページからなる小冊子を完成版とした。

<研究成果：まとめ>

本研究は不妊治療後の妊婦が、安心でより健康的な妊娠期を過ごすための看護ケアプログラムの開発を目的とした。

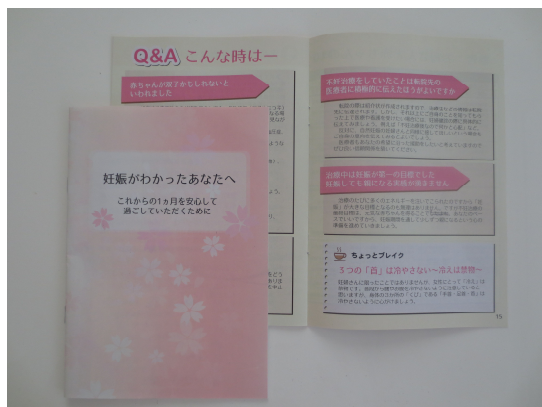
文献検討及び予備研究の結果から、安心して妊娠期を過ごすためには妊娠各期に生じる不安を軽減することの重要性が見出された。特にART妊婦は自然妊娠の妊婦とは異なるニーズを有しているため、ART妊婦に特化した情報を提供することで不妊治療から妊娠期の生活へスムーズに移行できるのではないかと考えた。そこで本研究では最終的な成果として妊娠初期のART妊婦に対する情報提供ツールとして小冊子を作成した。

妊娠判定時の情報提供は施設により様々な方法で実施されているが、ART妊婦に特化

した情報提供ツール（小冊子）の活用はあまり見当たらない。そこでこれらを用いた保健指導がなされれば、一定のケアの質を担保することができると考えた。また、妊婦自身も小冊子を積極的に活用すれば、自身の意思決定や妊娠初期の異常の早期発見や対処、セルフケアの向上の一助となるであろう。更に、小冊子の情報は、妊娠判定から母子健康手帳の交付を受けるまでの期間に必要な内容であることから、ケアの継続性の維持にも寄与するといえる。小冊子という情報提供ツールは簡便かつ汎用性が高いため、妊婦-医療者双方にメリットをもたらすものといえる。

2012年のデータによると、年間約38,000人のART妊娠が成立している。小冊子の利用により、妊娠初期の不安が軽減され、安心して健康的な妊娠生活をスタートすることができれば、妊娠期全体のQOLの向上や妊娠出産の安全性・快適性に寄与するものと考えられる。

今後は妊娠初期のART妊婦に対し小冊子を用いた介入の効果を検証し、内容を更に精選させるとともに、効果的な活用方法を検討していく予定である。



小冊子

「妊娠がわかったあなたへ～これからの1ヶ月を安心して過ごしていただくために～」

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表](計2件)

NAGAOKA, Y. KISHIDA, S. SHIMIZU, K. : Trends in Pregnancy After Infertility Treatment, 第56回日本生殖医学会学術講演会, 横浜(2011年12月)

長岡由紀子, 岸田佐智, 清水清美: 不妊治療後の妊産婦を支える看護ケア-不妊治療に携わる看護師の視点から-, 第58回日本生殖医学会学術講演会, 東京(2013年10月)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

長岡 由紀子 (NAGAOKA, Yukiko)
茨城県立医療大学・助産学専攻科・准教授
研究者番号: 80315762

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者

岸田 佐智 (KISHIDA, Sachi)
徳島大学・HBS研究部・教授
研究者番号: 60195229

清水 清美 (SHIMIZU, Kiyomi)
城西国際大学・看護学部・教授
研究者番号: 70323673